

福祉サービス第三者評価結果報告書（平成 29 年度）

平成 30 年 3 月 30 日

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
京都市春日野児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F

評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関／機構 12-215)

電話番号 03-3486-5141

代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	②	島田 聖子	児童健全育成推進財団 第三者評価室 所属評価者
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	京都市春日野児童館		
施設連絡先	所在地	〒601-1405 京都府京都市伏見区日野林町 49-12	
	電話番号	075-571-9314	
施設代表者氏名	館長 江口 美由紀		
契約日	平成 29 年 3 月 31 日		
自己評価票回答期間	平成 29 年 10 月 27 日～平成 29 年 12 月 8 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	平成 29 年 11 月 20 日～平成 29 年 12 月 4 日		職員回答項目
訪問調査日	平成 30 年 1 月 18 日		

京都市春日野児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1	事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している	
	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○
	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○
	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○
【講評】		
法人として基本理念と児童館の重点目標を掲げ、その実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人の基本理念は「京都市における社協行動指針2015」に明記しています。指針には児童館事業の「重点取組」を記載し、法人のホームページ、リーフレット、チラシ、児童館の利用案内への記載などの方法で公表しています。利用者にも法人が目指す「基本目標」「重点目標」について理解が深まるようにしています。児童館ではその「重点取組」を基本として事業計画を作成しています。		
② 業務権限や責任所在に関する規程を定めています。また、全職員対象の研修を開催し、法人幹部が講師となり児童館の現状課題や方向性、法人の理念を伝え理解を深める機会としています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制により、運営主体の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換を円滑に図っています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3. 利用者や地域住民を対象としてボランティア育成をおこなっている		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 地域の関係機関のネットワーク（連絡会など）に参画している		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
3. 小学校等利用者が関係する機関との連携を図っている		○
【講評】		
利用者や地域の関係者に情報開示を行い、透明性の高い児童館の運営を心がけています		
① 職員心得やサービス姿勢を「社協信条」に明示しています。「倫理」について研修を行うほか、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。そして、「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、法人所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。		
② 会計監査人の設置、管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。		
③ 京都市地域子育て支援ステーション事業の「基幹ステーション」として、子育てに関わる関係機関・団体のネットワークの基点となっています。各児童館では、「ステーションネットワーク」の広報物の発行や独自の取り組みが行われています。		
④ 「ボランティアの手引き」を独自に作成し、ボランティア担当を決めてその受け入れを進めています。		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○
【講評】 利用者の意見・要望を受けとめ、児童館活動としての利用者サービスの向上に努めています ① 「苦情解決のための実務マニュアル」「苦情解決規則」を整備しています。法人に第三者委員会を置くとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意向を酌むことに努めています。 ② 「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。また、アンケート結果を児童館に掲示・掲載することで利用者や地域住民へ公表し、透明性の確保とサービス内容の向上を図っています。 ③ 学童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して、個別的な要望や意向を把握しています。児童館と家庭の共通認識が図られるように配慮しています。		

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している		○
2. 年度単位の計画を策定している		○
3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる		○
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている		○
2. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している		○
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している		○
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している		○
2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している		○
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○
3. 利用者の負傷等に対応する傷害保険に加入している		○
4. 賠償すべき事故に対応する損害賠償保険に加入している		○
【講評】 法人の理念に基づいて事業計画を策定し、計画的な運営を行っています ① 「社協行動指針 2015」を基準に、児童館活動の基本的な方向性として事業計画を策定しています。地域福祉やコミュニティづくりを意識した児童館運営を行っています。 ② 職員行動評価の基準を作り、業績目標の設定と達成度について個別の評価を行っています。 ③ 法人独自に「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備し、避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、市からの指示により各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成しています。 ④ 活動中の利用者の負傷や、児童館が賠償すべき事案が起きた際等の不測の事態への備えとして、各児童館とも傷害保険・損害賠償保険に加入しています。		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
【講評】 人事考課制度や職員ヒアリングを導入して、人材育成と組織力の向上を図っています		
① 採用に関する明確な基準を持っており、透明性確保のために公募による採用を行い、適材適所の人員配置に努めています。 ② 法人独自の人事考課制度により、望ましい職員像や行動基準を明らかにしています。 ③ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ④ 職員一人ひとりの研修受講状況を管理し資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供		
1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している		
1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている		非該当
5. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている		○
【講評】 多様なルート、方法で地域への広報活動をしています。 ① 「児童館だより」は小学校を經由して全校児童に配布しているほか、地域協議会のメンバーや民生児童委員にも配布しています。さらに、学区内のすべての町内会の回覧板に載せています。また、ホームページへの掲載にも職員全員で取り組んでいます。 ② 保育所、保健所などのほか、電気屋さんやスーパー、駐車場のフェンスなどにお便りや行事のポスターを張ってもらっています。 ③ タテ型のカレンダー形式で表面に乳幼児親子対象事業、裏面に小学生対象事業の紹介をして、児童館が主に何をやっているかが分かりやすくなっています。掲載情報の量を整理し、中学生・高校生世代に向けたメッセージも充実して欲しいところです。 ※京都市役所の方針で放課後児童クラブは希望者全てを受け入れるため、項目4は非該当とします。		
2 サービスの実施		
1 遊びの環境整備を行っている		
1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている		○
2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある		—
3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している		○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている		○
【講評】 空間を有効に活用して、豊かな遊びと生活の場の維持に努めています。 ① 限られた空間を時間帯により使い分けるなどして有効に活用し、幅広い年齢層やニーズに合わせる工夫があります。 ② 週3～4日のペースで15分～30分程、職員引率で近隣の公園を使うなどの工夫をして、身体を動かして遊びたい小学生ニーズに応える努力をしています。 ③ 自由参加の「中高生卓球クラブ」の設定があり、中学生・高校生世代の利用ニーズを吸収しようという取り組みがあります。		
2 乳幼児と保護者への対応を行っている		
1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している		○
2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている		○
3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している		○

	<p>【講評】</p> <p>乳幼児親子に対し、地域と協力しながら様々な取り組みをしています。</p> <p>① 登録制の「いちごクラブ」のほか、年齢不問で自由参加の「なかよしランド」、活動後のランチタイムの設定など、ほぼ毎日何らかの取り組みが行われています。また、クラブやサークルがない日でもいつでも遊びに来られることを広報しています。</p> <p>② 日野学区の民生児童協議会の主催による子育てサロンを定期的に児童館で実施しています。また、地域の方が集って手芸や工作を楽しむ「たんぽぽサークル」への協力や、子育て支援ネットワークとして児童館外でひろばを開催するなど、地域の子育て環境の醸成に努めています。</p> <p>③ 登録制のクラブでは年度初めにグループ分けを行って、クリスマス会で保護者が主体となって唄や出し物を企画するプログラムを設定して、保護者の仲間づくりと育成に努めています</p>								
3	<p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table> <tr> <td>1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>遊びを通した個別的、集団的な経験を支援しています</p> <p>① 日常の遊び活動の中に、集団で協力して取り組むプログラムを意識的に取り入れて、達成感や仲間意識を持って社会性を高める経験をしたり、けん玉やコマなどの検定がある遊びで、個人で遊び込んで腕をあげたり、教え合ったりする経験をしています。</p> <p>② 子どもの困りごとを聴いたり、子ども間のトラブルが生じた際は、落ち着いて話ができるように別部屋で行う配慮があります。また、友だちと遊べない子やトラブルを起こしがちな子などの気になる子どもについては、日々のミーティングにより職員間で共有して、子どもの心を受け止めながら援助をしています。</p>	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○	2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○
1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○								
2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○								
3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○								
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○								
4	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table> <tr> <td>1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>中学生・高校生世代の居場所にもなるよう、意識して働きたいと考えています</p> <p>① 小学生と共存するため、場所や時間の配分や卓球台の使い方などに配慮しています。主に部活帰りに卓球をしに来ており、友だちを誘いあって少しずつ定着し、職員との関係もできつつあります。</p> <p>② 中高生の継続的な活動実績や居場所となるような組織的な取り組みが、まだ不十分のため、今後も大型行事のボランティアや日々の自由利用を通じて信頼関係をつくれるよう働きたいと考えています。</p>	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	○	2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○				
1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	○								
2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○								
5	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table> <tr> <td>1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>児童館のおまつりを実行委員会形式で運営して、主体的に関わる経験をしています</p> <p>① 毎年恒例になっている「おばけじどうかん」と「春日野児童館まつり」は、子どもが役割を持ち、主体的に行事に関わる経験をするを目的に実行委員会形式で実施しています。特に、夏祭りに位置付けられている「おばけじどうかん」では、テーマやおばけの配置決めなどの企画から、準備、運営を任せて取り組めるように支援しています。</p> <p>② すべての子どもに声をかけ、集団に入れない子、嫌な思いをする子が無いように常に配慮しています。</p> <p>③ 学童クラブでは、年度の初めに1年間自分たちがどのように過ごしていきたいか抱負を話し</p>	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○	2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○				
1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○								
2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○								

	合う時間を設けています。また、班長副班長選挙での「所信表明」などで、子どもが自らの生活を考え、決定し、他者の前で発表する機会を設けています。	
6	配慮を要する児童・家庭への支援を行っている	
	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○
	2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	○
	3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○
	【講評】 保護者が気軽に話をできる関係づくりに配慮しながら支援しています ① 日常的な保護者からの相談については、館長を始め職員全員がいつでも対応できる体制を整えています。お迎え時の会話、連絡帳、電話など、様々な方法で児童館での様子や家庭での様子を情報交換しています。 ② 障害のある児童への支援にあたっては、個人面談を行って子どもの特性や保護者の意向を聞き取り、支援の方向性を検討しています。子ども支援センターはぐくみ室からアドバイスを受けるなどの関係があります。 ③ 保護者が気軽に相談できるように、職員から積極的に話しかけるなどのアプローチを心がけています。	
	7 地域の児童の育成環境づくりを行っている	
	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○
	2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○
	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○
	【講評】 児童館運営連絡会や日野子育て支援ネットワークの活動を通して地域との連携を深めています ① 日野学区社会福祉協議会と民生児童委員が主催する子育てサロンに協力しています。また、地域子育て支援ステーション事業の一環として、公民館を会場とした移動児童館を実施しています。 ② 学区社協、民協児童協議会、学区自治連、小学校等の諸団体が構成する児童館運営連絡会を年2回開催して、児童館事業の報告や子どもの育成支援、課題について立場を越えて話し合う場になっています。 ③ 学童クラブの保護者懇談会では、児童館の安全対策について説明や報告をする機会を持ち、保護者が安心して子どもを通わせられるように配慮しています。また、児童館職員が地域の見守りパトロールに参画して地域の安全に貢献しています。	
3 サービスの開始・終了時の対応【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】		
1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
	2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	
	1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○

<p>【講評】</p> <p>保護者の不安を軽減させるように丁寧な対応を心がけています。</p> <p>① 新1年生を対象とした登録申請説明会、全学年対象の入会説明会を行っています。説明会ではスライドを活用して、学童クラブや児童館の行事を紹介して活動内容の理解を進めるとともに学童クラブへ行くことが楽しくなるように努めています。また、子どもになぜ学童クラブを利用しなければならないのかを家庭で話してもらえるように説明しています。</p> <p>② 子どもの生活時間が変化する長期休み前（7月、12月、3月）には保育懇談会を実施しています。全家庭と話ができるように3日間の設定で開催して、休みの過ごし方や家庭にお願いしたいことなどを説明し、家庭との連携を図れるようにしています</p> <p>③ 3月末で退会する子どものための「おわかれ会」、3年生を区切りとした「修了式」などの行事を丁寧に行って、子どもの節目への意識付けにしています。退会後でも自由来館でいつでも児童館が利用できることや、児童館のクラブ活動を勧めて、継続的な利用の促進と不安を取り除くことに配慮しています。</p>														
<p>4 特に配慮を要する児童・家庭の個別状況に応じた計画策定・記録</p>														
<p>1 定められた手順に従って情報収集、分析および課題設定を行い、子ども・家庭の課題を理解した個別の支援を計画している</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4. 計画を保護者にわかりやすく説明している</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている</td> <td>○</td> </tr> </table>			1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している	—	2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている	—	3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている	○	4. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○	5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている	○	6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している	—													
2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている	—													
3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている	○													
4. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○													
5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている	○													
6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○													
<p>2 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している</td> <td>—</td> </tr> </table>			1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	—	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	—								
1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	—													
2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	—													
<p>3 配慮を要する子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している</td> <td>○</td> </tr> </table>			1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○								
1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○													
2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○													
<p>【講評】</p> <p>きめ細やかな対応がなされています。</p> <p>① 要配慮児童の受け入れの際には児童と保護者で面談を行います。子どもの特性を知り、保護者の意向を聞き取ることで支援に役立てることに繋げています。必要に応じて保護者から発達相談に関わる資料の提供などもいただき、深い理解のもと支援するように努めています。</p> <p>② 個別の記録は全市共通の「児童の状況報告書」や「個人記録簿」の作成によって行っています。日々の様子や職員の対応ぶり、保護者とのやり取り等は学童クラブ日誌に記載しています。</p> <p>③ 「日誌」や「個人記録簿」毎日のミーティングで職員間の情報共有を図っています。</p> <p>④ 支援方針（計画）の明示、モニタリング、見直しといった決まった流れや仕組みがなく、必要に応じて保護者、職員間で対応について話し合っって子どもの援助を行っている状況です。</p>														
<p>5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重</p>														
<p>1 子どものプライバシー保護を徹底している</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている</td> <td>○</td> </tr> </table>			1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○								
1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○													
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○													
<p>2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p>														

	1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
	3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○
	4. 子どもの権利擁護のための規定が定められ、公表されている	○
【講評】 個人情報保護の徹底、子ども一人ひとりへの配慮など個の尊厳を大切にしています。		
① 法人の個人情報保護規定に基づき、個人情報に関わる写真や名前を掲載することがある旨を予め保護者に説明し、納得した上で同意書をいただくようにしています。突発的にその他に使用する必要が生じた場合は、その都度説明して同意を得ています。また、プライバシーポリシーを玄関に掲示して来館者に対応を明らかにしています。		
② 子どもの着替えが生じたり、けんかなどでクールダウンが必要になったりした場合は、人垣から遠ざけ、人目のないところで対応しています。		
③ 職員の子どもや保護者への言動で気になることがあった際は、できるだけその場で注意を促すとともに、事後にミーティングでの振り返りを行っています。法人の倫理研修や、職場倫理チェックシートで意識を高めるようにしています。		
6 事業所業務の標準化		
1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		
	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
	2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		
	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		
	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
	3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
	4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○
【講評】 法人共通のマニュアルを活用し、運営の標準化とサービス水準の確保に努めています。		
① 原則として「京都市児童館活動指針」に基づいた児童館活動をおこなっています。		
② 「個人情報保護マニュアル」「ボランティアの手引き」「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」など、法人独自のマニュアルが作成されており、原則として各児童館が同様の運用が図られるようになっていますが、館が設置されている地域の特性もあることから、その状況に応じて柔軟に対応することも認められています。		
③ 毎年小学生、中高生世代、保護者に対し利用者アンケートを実施して、地域の特色を活かした児童館運営をおこない、サービス・活動内容の見直しを図っています。		

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる		
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/>	
2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/>	
2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		
1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/>	
2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/>	
<p>【講評】</p> <p>個人情報等の重要な情報は、規程を整備して適切に保持・管理しています</p> <p>① コンピュータにはアクセス権限をかけ、万全に情報管理しています。</p> <p>② 必要な情報は職員が共有する仕組みを整え、個人情報のデータはサーバーで整理・保管しています。</p> <p>③ 介助職員やボランティアについても子どもへの対応上必要な情報を共有しますが、併せて個人情報の重要性について説明して「守秘義務」を徹底しています。</p>		

総評

■特に良い点

ポイント1	一貫した方針のもとに、各事業や利用者対応がされています
内容	乳幼児の利用が少なくなっている中、「選ばれる児童館になる」という館の方針を決めて、年度途中でも事業の見直しをしながら進めています。登録制の乳幼児クラブは年齢制限をなくして親子同士の交流が広げられるようにしました。卓球を目当てに来館する中学生向けに曜日と時間を決めてクラブ化し、少しずつ利用が伸びています。引き続き利用者ニーズを探り、職員の工夫を凝らしたプログラムを柔軟に取り入れられることを期待します。
ポイント2	地域とつながり、利用者の拡大を図るために努力しています
	おたよりの開示方法に工夫と努力がみられます。小学校全校配布、学区内の町会での地域回覧などのほか、地域の方が立ち寄ることが多い、電気屋、スーパー、駐車場のフェンスなどにおたよりやちらし、ポスターを掲示させてもらっています。民生児童協議会、保育園、地域のサークルなど様々な機関や人とつながりプログラムを展開していることも見て取れます。地域の子育て支援拠点として機能する児童館であるためにも、今後も各所と連携しながら、活動を地域に広げていかれることが望まれます。
ポイント3	法人はマニュアルや規程を整備し、コンプライアンスを重要視しています。
	法人は組織として必要な標準のマニュアルや規程を整備して、各館のコンプライアンスの浸透を図っています。一方で立地によって児童館に特長があるため、地域の実情に合わせて柔軟に運用することも認めています。さらに児童館長や職員に対して倫理に関する研修も実施しています。現在、倫理規定も検討・整備を図っています。将来を見据えた形で意識しながら、基盤強化に力を注いでいます。

■改善が望まれる点

ポイント1	館内掲示物の整理と内容の検討が期待されます。
内容	館内掲示物は居場所の雰囲気・イメージを視角から作り出すとともに、利用者、外部の方に対して児童館の情報を発信する、または利用方法によっては情報を受け取ることもできる重要な役割があります。 掲示物について、遊びや生活に関わる約束書き、注意書きが若干多く、雑然としている印象があります。乳幼児親子や放課後の子どもたちの居場所として、部屋の用途などに合わせた掲示物の整理・検討をされることが期待されます。
ポイント2	子ども実行委員会の取り組みのさらなる発展が期待されます。

	<p>「おばけじどうかん」と「春日野児童館まつり」は、子どもが役割を持ち、主体的に行事に関わる経験をするを目的に実行委員会形式で実施しています。</p> <p>今後はさらに、子どもが自ら考えて決定できる内容を、決まった行事の決まった一部分だけにせず、様々な場面で子どもの発案を生かす取り組みに広げられれば、より充実した活動になると思われます。</p>
--	---